

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【京都市】

1 実践テーマ	【Ⅲ スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築】
2 実施対象者	京都市立御所南小学校 6年 6クラス 176名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（ 総合的な学習の時間 ）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	障害のある人やサポートする人のお話を聞いたり、車いす・アイマスク体験等をしたりを通して、障害のある人と共に生きる・誰しものが共に生きることの意味や価値を探り、自分の生き方や考え方を見つめ直し、これからの自分の生き方にいかす。また、パラリンピックの認知度をあげるために自分たちにできることを考え、多くの方に発信する。
5 取組内容	<p>【発見課題 障害があるってどういうこと】 アイマスク体験 車いす体験</p> <p>【追究体験 「ともにいきる」ために大切なことを考えよう】 サポートする人の話 点字・手話体験 市の方の話 パラリンピックに携わる方の話</p> <p>【提案課題 「ともにいきる」あたたかい社会をめざして】 プロジェクトに分かれて 自分たちにできることを考え作成する まちの環境整備 手話を使って（歌・パフォーマンス） 提案をする 地図づくり パラリンピック（車いすバスケット）</p> <p>【熟成課題】 練り上げよう「ともにいきる」ために 私たちができること】 関わりの深い人たちに相談し、さらに私たちにできることをねりなおす</p> <p>【表現課題 みんなで考えよう 「ともにいきる」あたたかい社会】 報告会をする</p>
6 主な成果	オリンピックの認知度は高い一方で、パラリンピックの認知度はそこまで高くはなかったが、その事実が逆に児童の興味を引くことに成功した。また、実際のパラリンピックの試合を映像で見せてもらったり、パラリンピックに出場した選手に話を聞いたり、車いすバスケットを経験したりして、生のパラリンピックに関わるものに触れられたことも、児童の意欲喚起と持続につながったと考える。パラリンピックの選手の凄さ（特に車いすバスケットの迫力は児童も大興奮だった）が、スポーツを一生懸命やっている人ととらえさせ、「障害

	<p>がある」「障害がない」というような偏見を持つことがなかったことにもつながったように思う。さらに、パラリンピックの魅力や面白さに気付く児童もたくさんいた。来年の東京オリンピック・パラリンピックへの興味にもつながったのではないかと期待している。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>いろいろな状況にある人々とともにいきで (生きて・活きて) いくという視点を与えるために、東京オリンピック・パラリンピックの話題を導入で児童に提示した。自分たち以外に体が不自由でも頑張っている人達がいることを知り、実際に過去のパラリンピックの映像を見たり、実際に関わる人 (坂野先生) にお話を聞いたりした。</p> <p>工夫した点の1つ目は、パラリンピックを入り口にして、さまざまな立場 (目の不自由な人や耳の不自由な人、肢体不自由な人) の気持ちや実体験などを、体験を通して学習したことである。それらを通して児童の中には「どんな人でも何も変わらない。同じなんだ。」という気持ちが芽生えてきた。</p> <p>2つ目は、その後、車いすバスケの選手である山本さんと東さんに来ていただいたことである。児童は、生活用の車いすと車いすバスケ用の車いすはつくりが違うことや、障害の度合いによって車いすのつくりが違うこと、地面にあるボールをひろう工夫や、車いすバスケの独自のルールなどを学習した。最後には2人と一緒に車いすバスケも体験し、すっかり車いすバスケに魅了された様子だった。</p> <p>そこで、自分たちが知ったことや理解したことなどを他の人にも伝えるために、伝える場を設けることにした。工夫した点の3つ目は、プロジェクトごとの活動が進む中で、プロジェクトが実現したから終了、というのではなく、何度か練り直す機会を設けたことである。まず、児童が企画、実行している内容が適切なものかを、活動に関わりの深い人物に提示・相談し、何度か内容の練り直しを図る。他にも、その後、自分たちで見せる相手を想定し、お互いにアドバイスし合い、内容の練り直しをする。このように何度も実行しては練り直すことで、伝える内容がより精選・洗練されたものになり、児童の考えも深まっていくと考える。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>児童数が多いため、全員が車いすバスケを体験することが難しかった。車いすをレンタルすることが難しかった。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>来年度…6年生 総合的な学習の時間「共に生きる (仮)」 例年、実施しているので来年度も実施予定です。</p>